

第3群 精神看護

2016年12月10日(土) 14:40 ~ 15:20 ポスター会場A (ホールB7(2))

14:40 ~ 15:20

[PA-3-05]当事者研究とリカバリーの思想：向谷地生良(2015)『精神障害と教会』のテキストマイニング分析

小平 朋江¹, いとう たけひこ² (1.聖隷クリストファー大学, 2.和光大学)

【目的】向谷地生良は、統合失調症など精神障害をかかえる人たちのために、40年近く活動してきた。その思想と実践の全貌を捉えることは容易ではないが、近著『精神障害と教会：教会が教会であるために』で、キリスト教や教会との関係に踏み込みつつ、浦河べてるの家が生み出した当事者研究やリカバリーの考え方の原点を知ることができる。本研究では、テキストマイニングの手法により、浦河べてるの家の支援者である向谷地生良の当事者研究の視点から統合失調症をもつ人のリカバリー（回復）の考え方を中心に、彼の思想と実践の特徴を明らかにすることが目的である。方法として、テキストマイニングによる量的分析と、質的な分析の両方を用いる混合研究法を採用した。【方法】2015年出版の向谷地生良著『精神障害と教会：教会が教会であるために』（いのちのことば社）をテキストマイニング分析した。テキストの量的分析には、Text Mining Studio Ver.4.2を用いた。単語と係り受けについて出現回数の多い表現を集計した。使用単語のネットワーク分析を行い、どのような話題が語られているのかを明らかにした。好評語・不評語分析でポジティブに用いられている単語、ネガティブな単語を抽出した。【倫理的配慮】本研究の分析対象は一般に出版・公開されている書籍であり、著作権に配慮し著者の表現や言葉などを改変せず、引用部分を明示し、出典を明記した。【結果】出現頻度の多かった上位10単語は、「人」(306)、「教会」(221)、「もつ」(209)、「いう」(178)、「思う」(171)、「かかえる」(148)、「人たち」(137)、「大切」(137)、「統合失調症」(136)、「考える」(127)、であった。また好評語の上位には、「人」(25)、「教会」(14)、「人たち」(13)、「つながる」(11)、「経験」(9)、の単語があり、不評語の上位には、「現実」(11)、「人」(10)、「経験」(8)、「出来事」(7)、「つながる」(7)、があった。【考察】本書は、リカバリーについての向谷地生良の思想が述べられている貴重な文献である。人間関係に関わる援助の重要性が、単語の頻度や好評語・不評語分析からも明らかになった。リカバリーについては医学的側面、生活的側面、主観的幸福の側面があることが指摘されている。向谷地生良のアプローチは、PSWの立場からとクリスチャンの立場から、生活的側面と主観的幸福の側面を重視している。同時に人間関係形成の重要性と助け合うコミュニティ形成を重視している。人の苦労と悩みは宝であり、恵みであると主張する向谷地は、仲間とともに研究によってそれらを共有することが当事者研究のユニークな点である。※本研究は JSPS 科研費15K11827の助成を受けた。